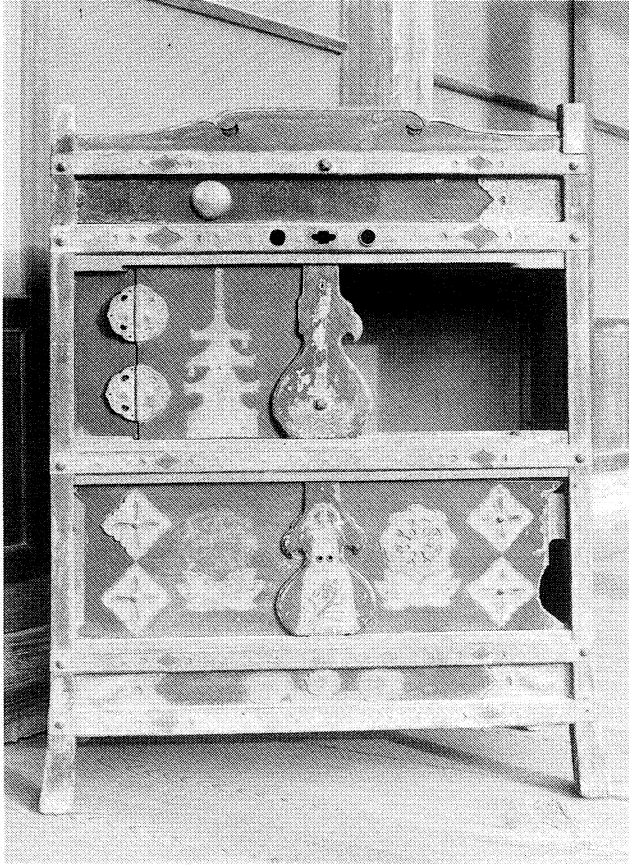


ふるさと探訪

県指定重要文化財(工芸品)

金銅装赤漆塗笈

(一背)



真言宗智山派清谷寺に伝来した金銅製打ち物金具装箱
笈は、山伏笈に属する大型品で、古風を伝える厚手の金
具を装着した堅固な作りである。

五条の框には、各々、古風な猪目いのめを透かす八双金具の
外に、魚々ななこ子地に唐草文・三鈷さんこ・独鈷どくこ杵じゆ・魚具・藻等の
海生動物物を毛彫り、及び打ち出し技法で表現している。

上段の扉は右は欠失するが、風鐸かざなをつけた三層塔、螺
番金具ろばんは菱花文、下段のケンドン板には蓮台上の輪宝を
並置なみ(左輪宝欠失)する。扉とケンドン板を押さえる帖
木きには、上は蓮台にのる三鈷柄剣さんこつが、下は三鈷鈴さんこれいの金具を
装し、鈴にはアヤメを魚々子地法で描く。最下の袋戸中
央には蓮池があり、左右の八双金具には大きな魚を打ち
出し、毛彫を加える。

この清谷寺笈は室町前期ごろの製作とみられ、わが国
遺存の山伏笈中、古期に属するものであり、天正二年の
紀年銘は真如房の奉納年月とみられ、歴史的に、かつ芸
術的に、はなはだ貴重な存在である。

形状 総高七十六センチメートル、上部幅五十七セ

ンチメートル、脚開き六十二・五センチメー
トル、奥行き上部二十六センチメートル、下
部三十七センチメートル

所在地 いわき市渡辺町上釜戸字堤の内七十番地
所有者 清谷寺